

徳島市の中心市街地 活性化計画に期待する

徳島市の中心部には新町川や助任川が流れ、川や川べりの藍場浜公園やボードウォークは、阿波おどり、マチ★アソビ、ひょうたん島クルーズ、とくしまマルシェなどの舞台になっています。眉山や徳島中央公園も間近にあり、市の中心部で水と緑を身近に感じられることが、徳島市の大きな魅力のひとつとなっています。ただし、それぞれのスポットが少し離れていることもあって、必ずしも「歩いて楽しめるまち」にはなっていないように思われます。

こうした現状を、徳島市は「徳島駅周辺まちづくり計画」(令和元年6月)の中で、次のように表現しています。

「徳島駅周辺には、徳島中央公園や眉山、新町川や助任川といった本市ならではの(地域)資源が存在しているにもかかわらず、その存在を駅周辺で身近に感じられない状況にあります。そのために、駅周辺の魅力が駅への来訪者に伝わらず、回遊行動を促すには至っていません」

「景観についても、まちなみが都市の顔としてふさわしいものになっておらず、地域資源を感じられない状況や憩い空間の不足とあいまって、“歩いて楽しめるまち”とはなっていません」

しかし、懸案だった新音楽ホールの整備事業が、関西・大阪万博が開催される2025年度中の開館を目指し、県市協調の下で進められることになりました。また、新ホールの近隣にJR牟岐線の新駅の開業も計画されています。長らく棚上げとなっていた鉄道高架の事業も、これをきっかけに動き出しそうな気配です。

新ホールの建設予定地は徳島中央公園と市役所・新町川の間にあり、新ホール整備により点在するスポットが有機的につながることになります。同時に、アミコビルの活用をはじめとする、中心市街地の活性化も待ったなしの課題となっています。

こうした中、徳島市では昨年12月に「中心市街地活性化準備室」を設置し、中心市街地活性化基本計画の策定準備を開始しました。同計画を策定の上、最終的には国の認定を受けることを目指しています。大変時宜を得た取り組みであると思います。

今号では、全国における中心市街地活性化基本計画策定後の現状と評価をレポートにまとめました。ここからおぼろげながら見えてきたことは、中心市街地の活性化には、どの地域でも適用可能な「成功の方程式」が存在する訳ではなく、地域の実情に応じたやり方を見つける必要がある、ということです。

新ホール整備や徳島市の中心市街地活性化計画がきっかけとなって、今後中心市街地の活性化と徳島らしい魅力ある「歩いて楽しめるまち」づくりが進むことを、大いに期待しています。